

【化粧品概要】

化学シリーズ【化粧品の概要】〈バック受講料 13,000円 講座番号 P06 (オンライン)・P06-1 (会場)〉

オリエンテーションと化粧品概論 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 本講座は、化粧品を学びたい人にとって手引きとなる啓蒙書として刊行した「化粧品科学へのいざない」(業事日報)をもとに、化粧品に関する科学技術を俯瞰しつつ、化粧品の生活や文化との関わり(QOL)の側面も含めた化粧品の概要を解説します。 [全1回]・5月16日(土) 14:00~15:30 講師 ● 坂本 一民 東京理科大学 創薬理工学部 先端化学科 客員教授	化粧品をめぐる心理学 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 化粧品は不要不急の行為で、楽しみとして行うものですが、人間の福利厚生に寄与するという側面も有しています。本講座は化粧の歴史を、生物の進化という巨視的視点、西洋対日本という比較文化的視点、明治維新以降の日本という近代的視点など、レンズの拡大率を変えながら振り返ります。さらに、スキンケアとメイクの区別、油と水、産生肌、公と私、慈しむ化粧と飾る化粧、スキンケア・メイクアップ・フレグランスの心理効果など総合的に解説します。 [全1回]・6月13日(土) 13:30~15:00 講師 ● 阿部 恒之 東北大学大学院 文学研究科 教授/博士(文学)
化粧品の科学技術史 日本近頃のルーツを辿る [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 明治以降の日本の近代化粧品は、時代の変化とそれに伴う消費者嗜好の変化に合わせて、次々と新しい化粧品を生み出し発展し、日本独特の化粧品文化を作り出してきました。本講座では、日本における近代化粧品の歴史を具体的な事例を交えて紹介し、新しい化粧品技術がどのような経緯で生まれるかを解説します。一方で近年、韓国コスメの台頭により、化粧品技術の高さだけでなくヒット商品になり得ないことが明らかになってきていることから、日本の化粧品技術の強みと弱みを考え、これからの日本の化粧品技術の発展の方向性についても考えます。 [全1回]・6月27日(土) 14:30~16:00 講師 ● 南野 美紀 株式会社ベルビュー 取締役 副社長/武庫川女子大学 客員教授 (薬学部健康生命科学科) /薬学博士/薬学博士/経営学修士	化粧品とビジネスアライアンス [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 どの業界でも NIH(Not Invented Here) に拘らず、PFE(Proudly Found Elsewhere) の導入も検討されている今日、化粧品もその例外ではありません。本講座では化粧品業界の特性を理解しつつ、同業や異業種とどのようにアライアンスを組むことにより自社の弱みを補い強みを更に強化するか、その基本的な考え方と事例を解説します。 [全1回]・8月29日(土) 13:30~15:00 講師 ● 神田 不二宏 武庫川女子大学 客員教授/工学博士

【化粧品の基礎】

化学シリーズ【化粧品の基礎】〈バック受講料 16,500円 講座番号 P07 (オンライン)・P07-1 (会場)〉

化粧品の基礎: 界面化学 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 化粧品は、固体/液体、液体/液体、液体/気体などの各種界面の制御技術により作られており、また使用後は、肌や毛髪などの界面との相互作用により機能を発現します。本講座では、化粧品技術の中核をなす界面化学について平易に解説します。 [全1回]・7月4日(土) 14:30~16:00 講師 ● 酒井 秀樹 東京理科大学 創薬理工学部 先端化学科 教授/博士(工学) 東京理科大学 総合研究院 界面科学部門/博士(工学)	化粧品の成り立ち [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 日常生活に欠かせない化粧品の多くは、水や油や粉体など、互いになじまない素材が巧みに組み合わされて作られます。本講座では、生活社会環境に応じた化粧品訴求と技術の変遷をたどったのち、化粧品製剤のなりたちと機能を発揮させるための仕組み、素材の使い方について解説します。 [全1回]・7月11日(土) 13:30~15:00 講師 ● 鈴木 敏幸 東京理科大学 創薬理工学部 先端化学科 客員教授/工学博士
化粧品の基礎: 界面化学 2 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 化粧品の開発において、界面活性剤の機能を最大限に引き出すためには、その性質を深く理解することが欠かせません。本講座では、界面活性剤の基本的な特徴である「分子集合体の形成能」や「界面への吸着能」を解説します。さらに、化粧品処方でも重要な「界面活性剤・高級アルコール・水の三分成分で形成される「αゲル(α型水和結晶)」** について、その構造と機能を紹介します。加えて、固体と液体の界面に対する吸着能の評価方法や、実際の研究事例を交えた実践的なアプローチも取り上げます。 [全1回]・7月12日(日) 14:30~16:00 講師 ● 酒井 健一 東京理科大学 創薬理工学部 先端化学科 教授/博士(理学)	化粧品の乳化・可溶化 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 水と油は互いになじまない物質の代表例ですが、両者とも多くの化粧品の重要な処方原料として用いられています。乳化とはこのような混ざらない複数の液体からなる分散系で、やがては分離する不安定な混合系ですが、乳液やクリームのような化粧品の基本となる製剤化技術です。一方、可溶化とは化粧水のように油性の香料や有効成分などを水に安定に溶かす技術です。本講座ではこれら化粧品の製剤化の基礎技術である乳化・可溶化を分かりやすく説明します。 [全1回]・7月23日(木) 19:00~20:30 講師 ● 山下 裕司 神奈川大学 化学生命学部 生命機能学科 教授

【化粧品の原料】

化粧品の原料
[全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名
それぞれの化粧品には使用されている原料の名前がパッケージに記載されています。そのため、どの化粧品にどのような原料が使われているか知ることは容易となりました。しかしながら、その名前を見ただけではその原料がどのような物質であるか理解することは簡単ではないと思います。本講座では化粧品に用いられる原料の理解を助けるため、それらをいくつかのグループに分けて解説します。
[全1回]・9月19日(土) 14:30~16:00
講師 ● 早瀬 基 花王株式会社 研究開発部門 上席主任研究員

【化粧品の肌への作用】

化学シリーズ【化粧品の肌への作用】〈バック受講料 16,500円 (オンライン)・13,000円 (会場) 講座番号 P08 (オンライン)・P08-1 (会場)〉

化粧品の評価 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 化粧品の目的は、健やかな皮膚の維持と美しく整えることにあります。健やかな皮膚あるいは肌は、適度な潤いがあり、ツヤや透明感があり、肌色にムラがなく、ニキビやシミ、シワがない状態といえます。化粧品を使って、そのような理想的な肌になっているかどうかは、角層の水分量、皮脂量、弾力、光学的な色、形態などを非侵襲的な計測で比較することができます。また、化粧品は継続して使用されるものですから、心地よい使用感が求められます。使い心地は機器測定では難しく、官能評価と言った人の感覚による評価が主流になっています。評価項目や手順など、正しく官能評価するためコツがあります。さらにはメイクアップ化粧品のように、仕上がりや肌を評価するときの注意点もあります。製品ごとの違いや実験結果を可視化することにも工夫がされています。それらの実例をあげて、分かりやすく講義したいと思います。 [全1回]・6月19日(金) 18:30~20:00 講師 ● 菅沼 薫 sukai 美科学研究所代表/日本顔学会特別顧問(第4代会長)/元武庫川女子大学薬学部客員教授/ハルメクup 菅沼美白講座	化粧品の安全と安心 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: 50名 化粧品は多くの人が一生のうち長期間にわたって使用するものであり、化粧品が重篤な健康被害をもたらすことは滅多にない安全なものと考えられています。これは化粧品が使用されたとき、ヒトの健康に危害を与えないことを示すために設計された予知的安全性評価に支えられているためです。従来は動物実験の結果なども用いてこの評価がなされてきましたが、昨今では、化粧品の開発に動物実験を用いることを禁止する国が増えてきています。この影響もあり、我が国の化粧品企業の間では原料や製品の開発に動物実験を用いていない状態になっており、従来の安全性評価の見直しが必要となっています。本講座では化粧品の安全性を立証するための考え方および、現状を鑑みた動物実験代替法を用いた安全性評価の取り組みについて解説します。 *会場型/バックには含まれません。 [全1回]・9月5日(土) 13:00~14:30 講師 ● 小島 肇 公立大学法人山梨小野田市立山口東京理科大学 工学部薬工学科 教授
化粧品と皮膚 美と健康は表裏一体 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 以前は美人薄命と言われていたが、最近の研究では、見かけの年齢が実際の年齢より若く見える人が長生きするという報告があります。見かけ年齢には、お肌(皮膚)の健康状態や、シワ・タルミ・シミなどによる外見が影響します。今回は、皮膚の構造や機能から健康な肌について解説し、加齢とともに紫外線や日々のライフスタイル、食生活がどう肌の健康に関係しているか説明します。結果的に肌の健康を目指すことで、健康長寿の実現にもつながるといってお話をします。 [全1回]・9月12日(土) 14:30~16:00 講師 ● 井上 神太郎 岐阜市公立大学法人岐阜薬科大学 化粧品健康学研究室 特任教授/博士(薬学)	化粧品と皮膚科学的応用 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 皮膚疾患の患者に対しては、社会生活における生活の質(Quality of life: QOL)を向上させることに留意しながら治療を進めていく必要があります。本講座では尋常性座瘡(ニキビ)、アトピー性皮膚炎、ヘアダイによる接触皮膚炎(かぶれ)などを取り上げ、皮膚疾患に対する化粧品の具体的な活用法をお話します。また、スキンケア製品など皮膚疾患の予防に有用な化粧品についても解説します。 [全1回]・8月1日(土) 14:00~15:30 講師 ● 中田 土紀文 昭和大学藤が丘病院 皮膚科 診療科長 教授
化粧品有効成分の皮膚浸透 [全1回] 受講料: 3,500円 定員: オンライン50名/会場20名 みなさんが日常お使いになっている化粧品では、薬機法に基づいて定められた範囲内で効果効果の標榜が可能ですが、例えば、「シワが消える」や「たるみやフェイスラインの引き上げ効果がある」などと標榜することはできません。クスリとは違うのです。では化粧品や医薬品を肌に塗ったとき、これら製品中の各成分は皮膚に浸透しているのでしょうか。本講座では、化学物質の皮膚浸透と皮膚透過について説明します。 [全1回]・9月26日(土) 14:00~15:30 講師 ● 杉林 聖次 城西国際大学インノベーションズ代表 特別非常教授/薬学博士	